

小脳研究会（Japanese Society of Cerebellum Research：JSCR）の設立

東京医科歯科大学大学院脳神経病態学分野・医学部附属病院神経内科

水澤英洋

1：発足の目的

2010年5月の全国脊髄小脳変性症・多系統萎縮症(SCD・MSA)友の会の総会および医療相談会の折りに、講演を依頼され、「今、顧みて為すべきこと」と題してお話をさせていただきました。その中で、いろいろなご質問とご要望をいただきました。何と言っても、早く有効な治療法を開発してほしいということであったと思います。それに対するお答えの1つがこの（日本）小脳研究会の設立です。

我々も含め、個々の神経内科医や研究者は一生懸命に診療や研究に当たっており、多くの原因遺伝子が解明され着実に発症機序の研究は進歩しています。しかし、そのスピードは患者サイドから見ると遅々として進まずといった印象なのではないかと拝察している次第です。実際、SCDやMSAに関わる神経内科医や研究者は、アルツハイマー病やパーキンソン病に比べれば遙かに少なく、また患者数が膨大な両疾患はもとより、患者数がSCD・MSAより遙かに少ない筋萎縮性側索硬化症に比べても、病態解明と治療法開発の研究は充分に進んでいるとは言い難いのが現実です。

一方、小脳の解剖学、生理学、薬理学など基礎的な理解は古くから非常に進んでおり、やはりわが国の研究者の貢献が大であります。さらに、小脳を冒す疾患には、SCD・MSAの他にも血管障害、炎症、腫瘍、外傷、奇形など多くの疾患が含まれます。このような状況にあつて、小脳ならびに小脳障害の分子メカニズムと病態生理を解明し、小脳障害に対して真に有効な治療法を開発する、すなわちSCD・MSAの克服には、臨床医や基礎研究者を中心とし、産業界や行政をも含めて全ての関係者が緊密に協力し、連携して研究を進めることが必須であると思われれます。

この目的のために、我々は小脳研究会（Japanese Society of Cerebellum Research：JSCR）を設立し活動を開始するとともに、広く小脳と小脳障害に関心を持つ基礎研究者、臨床医、ならびに関係各位に本研究会への参加を求めることといたしました。

2：研究会の陣容

まず、当初よりいろいろご相談に乗っていただいた、伊藤正男先生、金澤一郎先生、篠田義一先生に顧問としてご参加いただいております。そして、発起人として臨床系として佐々木秀直先生、祖父江元先生、辻 省次先生、西澤正豊先生、基礎系として川人光男先生、狩野方伸先生、北澤 茂先生、杉原 泉先生、三品昌美先生に加わっていただきました。現在、世話人の方々に御依頼を進めており、それが終了し次第、一般会員の募集を始める予定です。

決して大きくはないかもしれませんが、小脳に関する最先端、最新の情報を交換でき、様々な問題に対しての道筋が直ぐに見つかる、そのような研究会に発展させたいと願っています。全国 SCD・MSA 友の会とも緊密な連携、協力を期待しておりますので、よろしく願い申し上げます。

3：現在の状況

去る 2011 年 1 月 14 日の厚労省の運動失調班会議の 2 日目、班会議終了後、15：30 から約 1 時間半に亘って、小脳研究会設立記念講演会を開催しました。顧問の伊藤正男先生と金澤一郎先生に、各々基礎医学からみた小脳研究と臨床医学からみた小脳研究を中心に、長年のご経験や今後の展望についても熱く語っていただき、大盛況のうちにお開きとなりました。

今後、しばらくは運動失調班からご支援をいただき、1 月の班会議 2 日目の終了後に、研究会の学術会議を開催したいと考えております。

連絡先（当面以下の通りです）

〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45

東京医科歯科大学大学院脳神経病態学（神経内科学）分野

電話：03-5803-5233

F A X：03-5803-0134

e-mail：h-mizusawa.nuro@tmd.ac.jp